

議会だより

# のた

ホームページ <http://www.vill.noda.iwate.jp/>  
Eメール [gikai\\_jimukyoku@vill.noda.iwate.jp](mailto:gikai_jimukyoku@vill.noda.iwate.jp)

2021  
5/14  
第155号

4月15日、下安家地区で、野田小学校2年生がサケ稚魚放流会を行いました。当日は、サケの生態についての学習や、サケマスふ化場の見学をした後、元気でね！といってちっしやいと、元気いっぱいサケの稚魚を安家川へ放流しました。

## 第7回定例会（令和3年3月）

令和3年度予算を解説します……………P2  
令和3年度新事業について……………P4～6  
村政に鋭く切り込む【一般質問】……………P7～

# 震災から 10年

# 復興から発展へ

— 特集 —  
予 算

## 主な新規事業

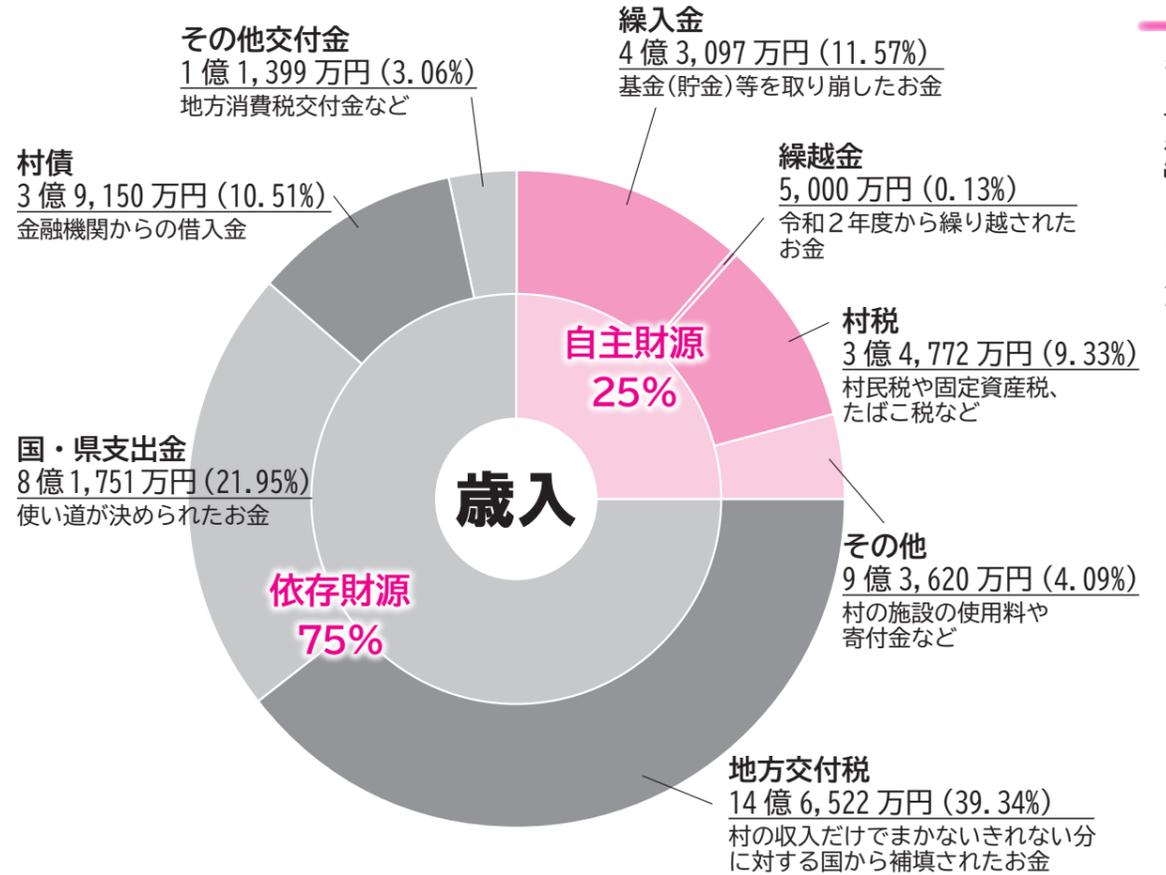
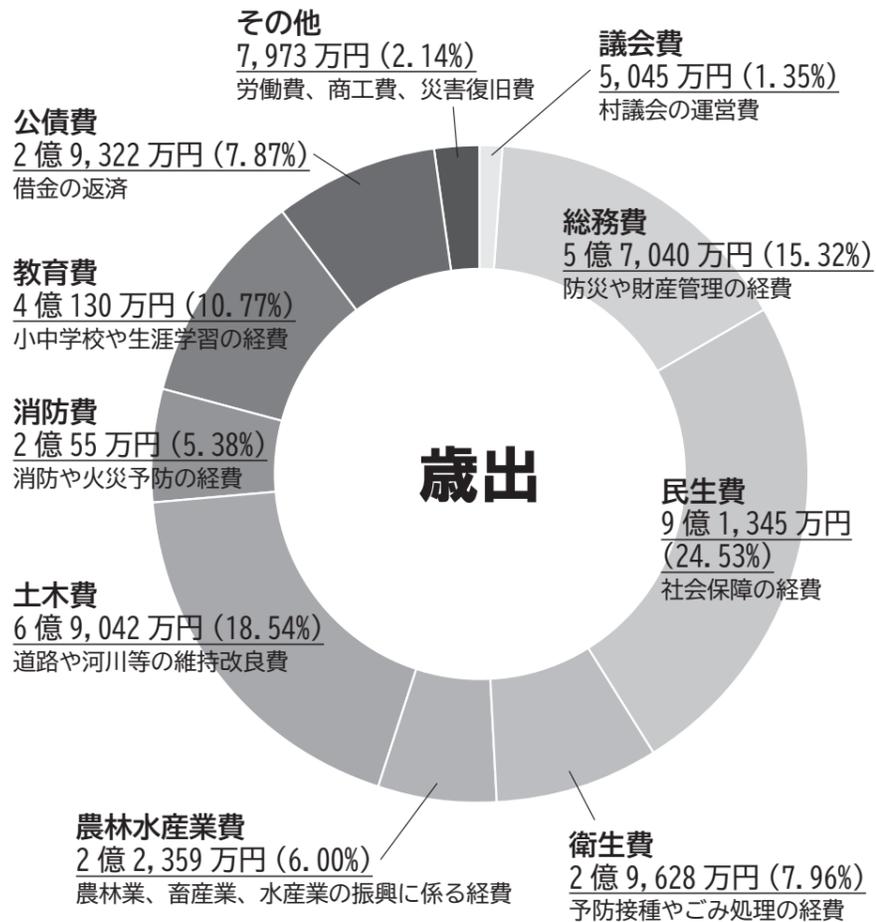
新型コロナウイルス  
ワクチン接種対策事業  
1,116万 2,000円



防災マップ作成事業  
915万 2,000円



小学校建設  
埋蔵文化財発掘事業  
1億 2,877万 4,000円



※金額は表示単位未満を切り捨てして表示しているため  
合計と一致しない場合があります。

3月定例会では、一般会計・各特別会計の令和3年度予算8件について、予算特別委員会を設置して審査を行いました。審査の結果、いずれも「可決」しました。

## 一般会計 37億2,444万円

### 村長施政方針演述

### ずっと、村民の目線で 復興・発展へと進む

小田村長は、令和3年度の村政を進めるにあたり、施策方針と所信の一端を述べた。

5期目の村政を無投票で担うこととなるが、選挙戦による審判と同様に重く受け止めている。また、これまでの政治信条である「村民の目線に立った行政運営」で、東日本大震災や台風などによる被害に立ち向かうことができ、村民からの協力、支援に感謝した。

そして、これからの4年間は、社会情勢の変化に的確に対応しつつ、震災で生まれた多くの「つながり」をより固い絆にし、人口減少時代の活力として、村の未来を創造したい、「住んで良かった」、「住み続けたい」と思えるむらの実現に向け、「復旧・復興」から、「発展を重視した「復興・発展」へと位置づけ、全身全霊で進むと決意した。

### 【用語解説】

**自主財源**  
村民税や村の施設の利用料など、村が自主的に収入することができるお金のこと。

**依存財源**  
国や県からもらう国・県支出金や交付金、村債などのお金のこと。

**地方交付金**  
全国どこに住んでいても、一定水準のサービスを受けられるよう、国から配分されるお金のこと。

**村債**  
村の借入金をいい、収入の一種であるが、将来償還しなければならぬところが他の収入とは異なること。

# 震災10年後の震災伝承・地域づくり

## 米田水門



海岸保全施設として整備された米田水門は東日本大震災により被災。大津波は水門最上部まで到達しました。破損した状態での屋根部の保存と津波到達高「22.5m」の表示により、津波の記録と脅威を後世に伝える役割を果たします。

# 震災伝承アーカイブ事業

## 東日本大震災 大津波記念碑



東日本大震災により本村では37人が犠牲となりました。津波被害を防ぐ思想・文化が村民の心に醸成され、将来に語り継がれることを祈念して、十府ヶ浦公園展望・休憩エリアに東日本大震災大津波記念碑が建立されました。過去の教訓とともに、命を守る行動が後世へ末永く伝承されることを願っています。

**震災から10年を迎え**  
本村での被災写真返却ボランティアがモデルとなった映画「浅田家！」が公開されたタイミングを契機として被災写真の拠点を復興展示室に移転し保存、展示、返却に係る企画を継続することとしています。  
令和2年度から村として取り組んでいる野田村「温故知新」写真（震災前の風景・活動等の写真）募集により蓄積された写真を含め村のアーカイブ事業にも寄与することが期待されます。  
被災写真のデジタル化を行うことで検索機能を高めるとともに、例えば写真整理やデジタル化する過程に村民が参加することで、コミュニティづくりにも繋がると考えられます。デジタル化した後の企画などを考えながら基礎づくりを進め、写真コンテンツとした震災10年後の震災伝承・地域づくりに寄与したい考えです。

**震災伝承施設  
新たに4施設を登録**  
これまで「米田歩道橋の一部」のみが登録されていたが、震災復興ハード事業が概ね完了したことを踏まえ、「米田水門（県管理）」「野田村復興展示室」「東日本大震災大津波記念碑」「旧下安家地区応急仮設住宅」の4施設を登録申請しました。村内には、このほかにも震災伝承施設に該当する施設が複数あるため震災伝承施設の登録申請を順次行うほか村としての震災伝承施設を整理し、マップ化を図ることを計画しています。また、震災伝承施設の最上位である「第3分類」に登録されると案内標識が表示可能、震災伝承ネットワーク協議会から観光事業者等への紹介など震災学習・教育旅行等の観光コンテンツにもなり得ます。  
このような取り組みにより、地域のみならず広く震災の記録・記憶を発信・伝承することができます。

東日本大震災により全壊し、平成29年に再建した保健センター3階に整備され、震災による被害状況や教訓、復興の足跡を将来に語り継ぐための展示や、被災から復興までの様子を映像やパネルで紹介しています。  
また、心の復興支援活動の一環でもあった村中心部の被災前のジオラマ模型は、住民それぞれの思い出の野田村を描いています。



## 野田村復興展示室



## 旧下安家地区 応急仮設住宅

東日本大震災により、311戸の全壊を含め、515戸、村内の約3分の1の住家被害を受けました。被災者の生活再建に至るまでの住居として村内5か所に応急仮設住宅を設置しました。このうち下安家地区の応急仮設住宅については県から譲りを受け、震災の体験や教訓を語り継ぐ防災教育に資する施設として本設整備することにより、震災伝承コンテンツとして展示・保存のうえ活用します。

# 産業活性化施策など巡り白熱論戦

## 一般質問

議員 **7** 人が登壇

**一般質問**は、村の行政事務全般（一般事務）に関し、村の所見や疑義について質問することができ、定例会でのみ（原則）行うことができます。

質問時間は、1人**60分**となっており、1つの質問につき**3回まで**質問することができます。



**丹野 和子 議員 (8歳)**

— **コロナ対策** 事業者支援と消費拡大の対策を —  
(村長：村内共通商品券を再度支給)

**中川 昇 議員 (9歳)**

— **雇用支援** 新卒者への雇用支援を行うべき —  
(村長：新卒者雇用支援奨励金等の活用を)



**古舘 幹男 議員 (10歳)**

— **三陸沿岸道路** 玉川地区にインターチェンジを —  
(村長：機会を逸することなく要望していく)

**山田 陽子 議員 (11歳)**

— **災害に備える** 津波浸水想定図の開示を —  
(村長：県の詳細な資料の公表を待っている)



**米田 徳一郎 議員 (12歳)**

— **交流物産複合施設** 施設整備の進捗状況は —  
(村長：産直関係者の意向調査を実施)

**野崎 泰斗 議員 (13歳)**

— **がん検診** 胃がん間接的推測検査の負担は —  
(村長：バリウムによる精神的な負担の軽減)



**小野寺 豊 議員 (14歳)**

— **施政方針演述** 小学校建設のスケジュールは —  
(村長：基本計画策定と埋蔵文化財調査を並行で)

<令和3年度事業>

# 新型コロナウイルスワクチン

## 予約券・接種券 発送開始!



### ワクチン接種体制の確保と円滑な実施

新型コロナウイルスワクチンの接種体制の確保と円滑な実施のほか、インフルエンザ予防接種の無料化、各種ワクチン接種助成による疾病の重症化予防に努めます。

新型コロナウイルスワクチン接種については、意向調査の結果により、80歳以上の年齢から年齢などを考慮し、順次、接種券を郵送します。接種当日は、接種券及び予約券を持参して接種します。

- 接種開始日  
令和3年5月10日
  - ※原則、毎週月・火曜の午後2時から午後6時までを予定
  - 会場  
野田村保健センター
  - 問い合わせ  
野田村保健センター  
電話 75-4321
- Q** 予約券・接種券はいつ届くか。  
**A** は、80歳以上の人から年齢などを考慮しながら、4月23日に第1週（5月10日、11日）分の発送がされたところです。
- 対象者には、接種日程を確認した後で、保健センターあて日程の可否の確認の電話を入れてもらうこととなっています。

### 胃がん間接的推測検査事業概要

**胃がんを間接的に検査し、身体的な負担を軽減**

村では、J-A新しいわてが実施する人間ドックの利用者に引き続き助成するほか、各種がん検診を継続するとともに、70歳以上の胃がん検診を受けられない人などを対象に胃がん間接的推測検査「ペプシノゲン検査」を新たに実施します。

高齢者の受診率向上のため70歳を予定しています。身体的な負担軽減を図り、疾病の早期発見、早期治療に努めます。

ただし、ペプシノゲン検査は進行がんの見落としや、早期がんの発見が不得意な検査であり、胃がん検査が原則となります。あくまでも間接的に胃がんを推測する検査となります。

- ※実施時期が決まりましたら、別途お知らせします。
- ペプシノゲン検査とは**
- 胃がんになる危険性の高い人を見つけることができる血液検査です。
  - 血液中ペプシノゲンの値を図り、胃の粘膜の薄さを推測することで、胃がんの前兆ともいわれる萎縮性胃炎を発見することが出来ます。
- Q** ペプシノゲンとは何か。  
**A** 胃液に含まれる「ペプシン」という、たんぱく質を分解する酵素の元となっている物質で、食べ物の消化を助ける働きをしています。

- Q** 検査でどんなことがわかるか。  
**A** 胃粘膜の老化の程度がわかります。胃がんのスクリーニング検査として有用です。陽性であれば胃粘膜に萎縮があると考えられ、萎縮性胃炎、胃がんのリスクがあると判断されます。
- Q** 再検査になったらどうする。  
**A** 紹介状により、精密検査（内視鏡検査）を自費で受けることとなります。







災害に備える

# 津波浸水想定図の開示を

村長 県の詳細な資料の公表を待っている

山田 陽子 議員



**村長** 内閣府が公表した津波浸水想定図では、詳細な浸水域を確認できず説明会に対応しうる資料ではない。令和3年度末に県独自の詳細な想定図の公表を見込まれるため、それをもって説明会や対策を検討する。

**問** 今後、想定される日海溝・千島海溝沿いを震源とする地震による津波は東日本大震災をはるかに超える可能性が大きい。近隣では想定浸水図の開示や説明会を実施している自治体もあるため早急に対応すべき。



いつ起こるか分からない災害に備え早急に整備していく必要があります



**問** 防災計画策定のため設置する地方防災会議について、国では女性

ジェンダーギャップ指数は

**村長** 利用者に支障がないよう、今後、マニュアルを整備する。

**問** 村の公共交通である村営バスについて、遅れが生じた場合などの住民への周知などに関する規定は。  
**村長** 利用者に支障がないよう、今後、マニュアルを整備する。

**問** これまでの日本社会でなぜ女性の参画が増えないのか村長の見解を

**村長** この時代にあまり考えられない発言と聞か。

**問** 森喜朗氏の女性蔑視発言をどう受け止めたか。

**村長** 看護師や保健師は入りたいと考えているほか、それぞれの団体のトップ等も検討しているが、女性を何割必ず入れなければならぬとなれば集めにくい部分もある。看護師や保健師のうち女性がいるので現実的に災害時の対応等有効である。

**問** 女性委員の人数は。  
**村長** 看護師や保健師は入りたいと考えているほか、それぞれの団体のトップ等も検討しているが、女性を何割必ず入れなければならぬとなれば集めにくい部分もある。看護師や保健師のうち女性がいるので現実的に災害時の対応等有効である。

**村長** 村防災会議において女性委員の任命を検討している。  
**問** 女性委員の人数は。  
**村長** 看護師や保健師は入りたいと考えているほか、それぞれの団体のトップ等も検討しているが、女性を何割必ず入れなければならぬとなれば集めにくい部分もある。看護師や保健師のうち女性がいるので現実的に災害時の対応等有効である。

**問** これまでの日本社会でなぜ女性の参画が増えないのか村長の見解を

**村長** この時代にあまり考えられない発言と聞か。

**問** 森喜朗氏の女性蔑視発言をどう受け止めたか。  
**村長** 看護師や保健師は入りたいと考えているほか、それぞれの団体のトップ等も検討しているが、女性を何割必ず入れなければならぬとなれば集めにくい部分もある。看護師や保健師のうち女性がいるので現実的に災害時の対応等有効である。

**問** 女性委員の人数は。  
**村長** 看護師や保健師は入りたいと考えているほか、それぞれの団体のトップ等も検討しているが、女性を何割必ず入れなければならぬとなれば集めにくい部分もある。看護師や保健師のうち女性がいるので現実的に災害時の対応等有効である。

**問** 女性委員の人数は。  
**村長** 看護師や保健師は入りたいと考えているほか、それぞれの団体のトップ等も検討しているが、女性を何割必ず入れなければならぬとなれば集めにくい部分もある。看護師や保健師のうち女性がいるので現実的に災害時の対応等有効である。

三陸沿岸道路

# 玉川地区にインターチェンジを

村長 機会を逸することなく要望していく



古舘 幹男 議員



緊急時にしか通行できない「緊急連絡路」ではなく常に利用できるICの整備が望まれます

**村長** 洋野種市ICを上下線乗り降りできるフルICとするとの報道があった。三陸沿岸道路が開通した地域では、物流の効率化や広域周遊観光の推進など、道路を活用した事業の効果が高まりつつあるため、玉川地区へのIC設置について機会を逸することなく要望していく。

**問** 三陸沿岸道路について玉川地区へのインターチェンジ（IC）設置を要望してきた。緊急時のみならず利用できるように県・国へ要望すべき。

**村長** 漁場の磯焼けは全国各地で見られている。磯焼けの原因は様々いわれているが、水産庁が策定した「磯焼け対策ガイドライン」により野田村漁協で磯資源の再生に取り組ん

**問** 漁場の磯焼け対策を  
**村長** 漁場の磯焼けは全国各地で見られている。磯焼けの原因は様々いわれているが、水産庁が策定した「磯焼け対策ガイドライン」により野田村漁協で磯資源の再生に取り組ん

**村長** 通常は所管課の職員が放送を行っているが、他の職員や他団体の職員が放送を行うこともある

**問** 防災無線放送の指導は  
**村長** 村民から防災無線の放送が聞き取れないといった声を聞く。放送の指導や研修等は行っているか。

**問** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。  
**村長** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。

**問** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。  
**村長** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。

**問** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。  
**村長** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。

**村長** 村としても、次世代を担うリーダーの存在は重要であると認識している。過去においては、各種産業団体、地域団体などの活動を通して、その時代を担うリーダーが育まれてきた面があったと考えている。現在は、価値観の多様化や人口減少などがリーダーの出現に影響を及ぼしている可能性がある一方、震災後に生まれた新たな活動や交流など、新しい要素も生まれてきている。村では、そういった新たな要素をサポートし、多くの未来を担う人材が出現することを期待している。

**問** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。  
**村長** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。

**問** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。  
**村長** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。

**問** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。  
**村長** 村に特別な商品価値を付加していくべきか。



## がん検診

# 胃がん間接的推測検査の負担は

### 村長 バリウムによる精神的な負担の軽減が図られる

野崎 泰斗 議員



検診時の負担軽減を図ることで受診率の向上を図ります

**問** 交流物産施設等複合施設計画の進捗状況と関係団体などの協議結果や建設場所や施設規模を示せ。

**村長** 昨年、産直関係者から出展や施設規模などの意向調査を実施した。建設場所は三陸沿岸道路の野田インターチェンジ（IC）隣接地を予定し、施設規模、機能等は基本構想を基に精査する。「観光物産館ばあぶる」と産直施設の管理運営への影響、「道の駅指定」への関係機関との協議など「村の活性化計画」の充実を図りながら財源確保



既存施設も含めて総合的に検討していかなければなりません

保と運営形態の検討、整備後の管理運営費など、先を見越した財政計画が重要と考えている。

**問** 久慈工業高校の存続は再編計画最終案での意向と村の対策を示せ。

**村長** 村では、県立久慈工業高校を守り育てる会を通じ、魅力づくりに取り組む同校への支援と存続に向けた要望などを行っている。最終計画案では、同校は令和3年度の入試状況などにより統合時期を判断

**問** 70歳以上の胃がん間接的推測検査（ペプシノゲン検査）による高齢者の負担と、これまでの検査と比較して正確度が増すのか問う。

**村長** 血液を採取し、ペプシノゲンの量を測定するので、バリウムを飲む必要がなく、精神的な負担軽減となる。正確性はエックス線法より発見率が2・7倍高いとの報告がある。高齢者の受診率向上のため70歳を予定している。

**復興・発展とは何を指しているか**

**問** 新たな4年間を復興・発展から復興・発展へとことだが、継続事業が多い中で発展とは何を指しているのか。

**村長** 自然災害のハード事業が完了し、本来のまちづくりができることから、発展に重きをおいた表現にした。

すること。

**三陸沿岸道路玉川地区へのIC設置要望を**

**問** 三陸沿岸道路について、玉川地区には緊急時の物資搬入路が整備されると聞くが、救急時、観光面でも重要な地域であることからICを設置要望すべきではないか。

**村長** 三陸沿岸道路が開通した地域や開通を見据えた地域では、物流の効率化や広域周遊観光の推進など、三陸沿岸道路を活用した事業効果が高まりつつある。本村でも、有事の際の緊急的な利用だけでなく、玉川地区へのICの設置について、機会あるごとに国等へ要望していく。



各地で三陸沿岸道路整備の効果が見え始めています

**小田村政5期目重点施策は**

**問** 震災復興はこれからが正念場である。人口減少対策にどう取り組むのか。

**村長** 従来の移住・定住対策のほか、結婚新生活の経済的負担の軽減を図る支援策や、結婚・出産・子育てを支援していく。今後、子育て支援、交流人口の拡大、産業振興施策などを継続し、長期的視点で進めていきたい。

**問** 企業や商業施設の誘致など、新たな施策を講じていく考えは。

**村長** 企業誘致等は広域で進めていければと考えている。村としては一次産業の振興策を講じ、様々な事業と複合的に実施していきたい。

**【その他の質問】**

◎施政方針演述について「北岩手・北三陸横断自動車道路期成同盟会活動について」、「水産物の生産量の増大と販路拡大の具体的な施策について」

**GIGAスクール構想環境に問題はないか**

**問** GIGAスクール構想の実現で、1人1台のタブレット端末などを整備したが、指導者等問題なく活用できる環境か。

**教員** 県立久慈工業高校の出前授業などが行われ、中学校では、問題なく活用されている。今後、小・中学校と連携しながら、研修会等を開催して効果的な活用に努める。

**問** 子供たちは吸収が早いいため、1人1台を預けて利用させては。

**教員** タブレット端末はどの教科でも使えるのでそのように進めている。最終的には持ち帰りも検討している。

**問** このタブレット端末の利用に係る通信環境の整備は。

**教員** 持ち帰るための環境が整っており、学習できる状況にあると考えている。環境が整っているものと整っていないものとの差が生じないような状況を考えていく。



## 過去の「議会だより」は HPから見るができます

過去に発行された「議会だよりのだ」は村のホームページで見ることができます。



携帯電話やスマートフォンのカメラ機能で読み取ると直接サイトにつながります

## 議会傍聴にお越しください

村議会定例会は、3月・6月・9月・12月に行われています。

傍聴の手続きは、受付簿に必要事項を記入するだけなのでとても簡単です。

村の将来やあり方についての議論を直接聞くことができます。皆様の傍聴をお待ちしております。

**次の定例会は6月です**

## 議会だよりクイズ

### 《問題》

震災伝承施設として新たに登録された施設はいくつ？

- ① 3つ      ② 4つ      ③ 5つ

【前号の答え】 ③原子力発電

【当選者】 澤口 奏さん  
澤口 胤舜さん  
中野 昌代さん

正解者の中から抽選で3名の方に景品をプレゼント!

### 【応募方法】

はがきやFAXなどで、答え、住所、氏名（ふりがな）、年齢、連絡先を記入してご応募ください。応募は1人1通までとし、匿名での応募は受け付けません。議会だよりに対するご意見もお待ちしております。

### 【応募先】

〒028-8201 九戸郡野田村大字野田20-14  
野田村議会事務局「議会だよりクイズ」係まで  
FAXの場合は0194-78-3995まで

【締め切り】5月31日消印有効とします。

### 【当選発表】

次回号で当選者（特に断りが無い限り氏名）を発表します。

あぞがき

3月議会は、村長、教育長の施政方針演説、令和3年度一般会計予算等が提出され、7名が村政の展望や具体的施策について、一般質問を行いました。  
議会だよりを編集して、「思うは易し、行ふは難し」で、住民の意見を取り上げることがあまりできませんでしたが、今までは早く発行できるよつになったと思っています。  
なかなか収まらないコロナ禍にとまどいながら、フクチン接種に希望をつないでいきます。

丹野和子

### 発行責任者

議長 廣内 和之

### 広報編集委員会

委員長 丹野 和子  
副委員長 小野 寺 豊  
委員 古 幹 一 男  
委員 米 田 忠 一  
委員 中 川 大 陽  
委員 山 田 陽 子